



アトリプシー

Art+3C

Art とは、表現者が鑑賞者に伝わるモノやコトを創り出すこと。表現する技法や道具にとらわれず、ストレスや痛みを緩和するための術。**Communication** とは、表現者たちが自らの心や身体の変化をアートを通じて伝えていくこと。社会に理解者を増やしていくための活動である。**Connection** とは、表現活動を通して生活の中に創り出されたつながる場、芸術環境のこと。聴くこと、観察すること、感じること、理解することを大事にした創造性の教育の場であったり、一人では無理だけど誰かと一緒なら学べるという可能性や希望を感じられる社会。自分自身が一番楽しめて、自分の可能性を実感できる世界。**Care** とは、自己肯定感の回復であったり、生きている環境や価値観をより良く変える取り組み。優しい人と人とのつながりの中で、生きる力の源となる喜びや幸せを感じて関係性の回復につなげること。

アートミーツケア学会 オンラインジャーナル第15号

【エッセイ】境界をまたいでみたら：シングルマザーの癌患者と小学生のヤングケアラー



何を実現するのか。

「緩やかにつながってゆく循環型ケアの実現を目指します。」

闘病者が治療中、少しでも不安や苦痛を伴わないように。そして、闘病者やご家族・ご友人が言葉にできない思いを伝えられるように、アートを介したコミュニケーション方法を提案。私（がん患者）の体験と気づきを伝えることで、それぞれの痛みをケアしていくきっかけをつくり、自分自身や他者を思いやる心のゆとりを創出します。また、命の大切さ、人間の尊厳や存在意義など、その人にとっての生きる意味や価値についてを考える機会、どう生きるかに関連するコトやモノを取り上げて働きかけます。

どのように実現するのか。

自己表現して

アートのワークショップを企画・開催し、気軽に自己表現できる機会をつくる



Art

披露して

病院や大学、企業の一室をアートギャラリーに変化させて、発表の場をつくり理解者を増やす



Communication

つながる

アートをスカーフに編集し販売する。収益の一部を当事者へ還元し、社会にケアを循環させる



Connection

共感

個人の境界線を越えて、私と他者（私たち）の間に響きあう心の現象、人と人が関わり合い、互いに影響し合うことでケアをする。

遊びごころの再生

自分の行動に好奇心を持ち、取り組み続け、自分の力や考えを信じて前向きに可能性を追求する楽観性を持つことでケアをする。

ウェルビーイング

社会で自分のアート（自己表現）が認められることによって、自己肯定感の回復につながる。がんを患っていたとしても最期まで「よく生きること(well-being)」が目指せるように、社会の中に優しい人と人とのつながりを創り出すことでケアをする。

セルフ・コンパッション

困難な状況において、自己に生じた苦痛をありのまま受け入れ、その苦痛を緩和し、幸せになりたいと願う、自己と肯定的に関わることでケアをする。

Care

募集

1. 絵を購入（展示）していただける病院・企業（会議室や休憩室に）や、スカーフを販売していただけるお店を探しています。闘病者やご家族は痛みを公けにせず、あなたの身近に存在しています。社会の中に小さなケアのタネをまかせてください。
2. スカーフの絵柄を募集しています。参加してみたい... がん患者やご家族がいらっしゃいましたら、絵が描けなくても問題ありません。やってみたい！という好奇心を抑えず、心が動くままにご連絡ください。

お問い合わせ：info@satsuki.design



<https://www.satsuki.design/care-art>

ジャスミン

東京藝術大学 DOOR7 期生。京都芸術大学大学院卒。アルコールインクを用いた作品を制作。アートを編集したスカーフも製造。2021年に乳がんを患い死を身近に感じた経験から、遊びごころを持って愛のある芸術活動を実践中。「私の遊びごころを共有することで、生きる力の源となる喜びや幸せを感じてもらえるように。言葉にはできない気持ちをアートで表現し、関係性のケアにつなげます。」